



# 田畑 染 たはた そめ

生まれた場所：山形県

生まれた年：1875年

なくなった年：1952年

※早川かい・和崎ハル・田畑染の3人は、ともに協力し、同じ運動に力をつくしました。ぜひ3人の学習シートをいっしょに読んで下さい。

## あきた ふじんうんどう はは 秋田の婦人運動の母

田畑染は、今から130年以上前の1875年、山形県に生まれました。秋田県の学校の先生とけっこんし、秋田にやってきました。

36歳のとき、夫とともに草木尋常小学校（今の鹿角市草木）で、先生を助ける仕事をするようになりました。そのあと、七滝尋常小学校をへて、秋田市に來ました。

染は、55歳のとき、和崎ハルらとともに女性が政治に参加することをめざす「婦人選挙権獲得同盟秋田支部」を作りました。

その運動を広めるために、染は秋田県内を飛び回って活動したそうです。

大曲、横手、能代、湯沢、本荘などに支部を作るために、そして自分たちのやっていることを多くの人にわかってもらうために、ほとんど自分の家にいることがなかったといわれるほどでした。染の家は、薬局をしていたそうですが、染が家にほとんどいないのですから、薬局にはあまりお客さんはいなかったという話も伝わっています。

そのころ、女性は和服を着ていることがほとんどでしたが、染は洋服を着ていて、いなかの人をびっくりさせたこともあったそうです。

57歳のとき染は、東京で開かれた「第3回全日本婦選大会」に秋田県の代表として出席しました。それから第4回、第5回と毎年のように婦選大会に出席し、戦争に反対する気持ちを話しました。

当時は、日本が少しずつ戦争へ向かいつつあるときだったので、その中で戦争に反対する意見を言うことは、たいへん勇気がひつようなことでした。

染は、りくつの通じないおかしなことに対しては、だまってはられない強いせいかくの人だったそうです。ですから、どんな世の中であっても戦争をゆるすことはできなかったのでしょう。

染は、秋田弁のまじった言葉づかいだったそうですが、聞いている人をひきつける上手な話し方をしたと言われていています。どんなときであろうとも、自分の意見をはっきりと話す染のすがたは、多くの人を感動させたといわれています。

しかし、染の願いもむなしく、日本は戦争をはじめました。ともに活動してきた和崎ハルも大阪に去り、戦争に反対することはまったく言えない世の中になってしまいました。そして、染もまた岩手県へとうつていきました。そして76歳のとき、岩手県で亡くなりました。

その後、戦争が終わってから、和崎ハルは女性としてはじめての議員となります。そのことを、染はきっとよろこんだことでしょう。染は、今も北秋田市のお寺にねむっています。